

通級指導教室におけるコラージュ療法を用いた児童理解と支援

A8G31009 内藤 暢彦

指導教員 井上 清子

I. 問題と目的

コラージュ(collage)は、写真や絵や文字などを、新聞、雑誌などから切り抜き、これを画用紙やケント紙などに貼ってひとつの作品にする方法である。コラージュ療法は、芸術療法の一つで、コラージュを作成することそのものが自己治癒的な効果を持ち、気分や情動を安定させる可能性が示唆されている。健常者においては、コラージュ制作後に、緊張・不安、抑うつ、怒り・敵意、疲労、混乱などが減少し、活気が増加することが報告されている。また、継続的に作品を作ることで、クライアントが気持ちを表出しやすくなり、クライアントのもつ不安や問題点を作品を通して理解することが可能となるといわれている。

平成 19 年 4 月に、「特別支援教育」が学校教育法に位置づけられ、障害のある幼児児童生徒の支援をさらに充実していくことが示された。施行が簡便で非言語的な表現を主とするコラージュ療法は、教育現場で発達障害児に適用されうるのではないかとと思われるが、教育現場で発達障害児を対象としてコラージュを継続的に実践した報告はまだみられない。

本研究では、発達障害児のコラージュ作成による短期（コラージュ作成前後）および長期（数ヶ月～1年）の気分や作品、心理、行動の変化を明らかにし、教育現場における発達障害児の支援方法としてのコラージュ療法の可能性を探ることを目的とする。

II. 方法

1. 対象と実施時期

対象は、A 公立小学校通級教室に在籍し、本人および保護者に研究協力の同意が得られた 2～6 年生の児童 9 名。このうち、6 名（男子 5 名、女子 1 名）が発達障害と診断されている。実施時期は 2008 年 11 月から 2009 年 10 月（4, 8 月を除く）。1 回 45 分、月 1 回の頻度で、コラージュ療法を実施する。

2. 材料

(1) 質問紙

- ①保護者用：当該児童について自閉症傾向を測定する AQ(autism-spectrum quotient) および問題行動の自由記述からなるもの。(以下、保護者用質問紙)
- ②児童用：気分を評価する標準化された質問紙である日本版 POMS (Profile of Mood States)のうち、児童にもわかりやすい表現で書かれた質問を 6 種類の情動尺度から各

5項目ずつ抽出したものの計 30 項目に 5 件法で回答する質問紙（以下、POMS）と、作品のタイトルや満足度など感想を問う質問紙（以下、感想用質問紙）。

（2）コラージュのための材料

杉浦(1993)が分類した各領域（自然・人間・動物・植物・建物・室内・食べ物・乗り物・物体・抽象）の写真や漫画のページ・切片、のり、はさみ、白 B4 用紙、ペン、クレヨン。

3. 手続き

第 1 回および最終回に、保護者に、保護者用質問紙に回答してもらう。

各回のセッションは、通級教室において、各児童に対して個別に以下の流れで施行した。

- ① POMS の質問項目を調査者が読み、児童に回答してもらい調査者が記入する。
- ② ボックス・コラージュ法施行
- ③ POMS の質問項目を調査者が読み、児童に回答してもらい調査者が記入する。
- ④ 感想用質問紙にそって、調査者が質問し得られた感想を記入する。

III. 結果と考察

今回は、発達障害と診断されている児童 6 名のコラージュ制作前後における気分変化を中心に検討する。1～5 回の TMD(Total Mood Disturbance)得点を求めた結果を Table 1 に示した。第 2 回以降では、B 児童における第 3 回の施行をのぞき、コラージュ制作後、TMD 得点は低下し気分は改善された。

第 1 回では、3 名の児童で TMD 得点の改善がみられなかった理由として、発達障害の特徴のひとつといわれているはじめての事柄に対する不安や疲労感が強かったことが推察された。第 3 回において B 児童に気分の改善がみられなかった理由としては、検査者がその回だけ別の人物と交代したことが推測された。

第 2 回以降の TMD 得点の改善の様子から、コラージュ療法は、発達障害児に対しても安全性が高く気分の改善や安定に効果がある可能性が期待された。

Table 1 コラージュ制作前後における TMD 得点の比較

	A (小2)		B (小2)		C (小2)		D (小3)		E (小4)		F (小6)	
	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後
第 1 回	52	22	50	10	23	24	52	56	44	44	27	12
第 2 回	28	18	40	11	30	25	制作せず		45	26	12	7
第 3 回	5	3	19	32	24	16	76	60	26	7	11	2
第 4 回	8	0	23	21	46	22	42	18	10	7	通級卒業	
第 5 回	7	7	26	16	46	21	39	23	6	2	通級卒業	

IV. 文献

杉浦京子：コラージュ療法の基礎的研究Ⅱ—表現特徴の発達に関するパイロットスタディ—，日本医科大学基礎科学紀要 14, pp11-33,1993.